

## 18kDa トランスロケータ蛋白画像化による 神経変性疾患の診断 ～新規トレーサ開発による高精度イメージングの可能性～

2011/7/28(木) 17:30～18:30

大阪大学医学部 臨床研究棟3階 セミナー室

独立行政法人国立長寿医療研究センター  
認知症先進医療開発センター脳機能画像診断開発部  
分子探索子開発室長 旗野健太郎先生

18kDa トランスロケータ蛋白(TSP0)は末梢性ベンゾジアゼピン受容体とも呼ばれ、神経変性に伴う神経炎症のマーカーとして注目されています。ミクログリア細胞は正常脳組織にも存在し、神経栄養的に振る舞い、炎症の惹起に伴って活性化され毒性を発揮すると考えられています。TSP0はこのミクログリア活性化のマーカーとして期待されています。

TSP0の画像化のためのPET薬剤として(R)-PK11195が広く知られており、様々な神経変性疾患や脳障害において(R)-PK11195によるPETイメージングが多く試みられてきました。しかし、(R)-PK11195は脳移行性が低く、また、TSP0に対する親和性が小さいという問題があります。

旗野健太郎先生は、これら欠点を克服した、新たなTSP0リガンドの開発および変性疾患モデル動物と高分解能PETを用いたその評価を行っております。本講演では、長寿医療研究センターにおける最新の研究成果を紹介していただき、PETによる神経変性疾患イメージングの可能性を示していただきます。

### 略歴

- 平成 2年 3月 東北大学大学院薬学研究科修了、薬学博士
- 平成 2年 4月 学校法人岩手医科大学サイクロトロンセンター助手
- 平成 7年 1月 国立療養所中部病院長寿医療研究センターライフ機能研究部機能評価研究室長
- 平成 16年 3月 国立長寿医療センター研究所長寿脳科学研究部加齢性変化研究室長
- 平成 22年 4月 改組により現職

主 催:PET 分子イメージングセンター

連絡先:大阪大学医学系研究科核医学講座(06-6879-3461)

hatazawa@tracer.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.tracer.med.osaka-u.ac.jp/index-jp.htm>